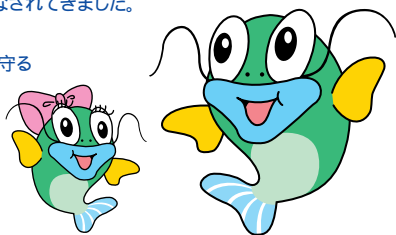


## 豊かな暮らしのために 水とのふれあいを守る。

心やすらぐ水辺の景観は、そこに住む人々にとってオアシスというだけでなく、訪れる人々にとっても自然との大切なふれあいの場。琵琶湖も古来から湖国と呼ばれ水と深い関わりを持っています。琵琶湖総合開発事業では、わたしたちがより豊かな暮らしができるよう、さまざまな取り組みがなされてきました。今回紹介するのは、その中でも水の文化を守る取り組みのひとつです。



### ●白鬚神社の大鳥居の沖出し

滋賀県の代表的な観光名所のひとつに数えられる白鬚神社の大鳥居は、開発にともなう湖水位の低下や湖岸道路改築のための対策として、元の位置から約15m沖合いに新築移転された結果、現在も風格と湖面に映える美しい景観が保たれています。



### ●浮御堂付近の浚渫

古来から近江八景の一つとして親しまれてきた壱田の浮御堂では、水位低下時においても湖面に浮かぶその美しい景観を保つため、周囲の浚渫が行われました。



### ●その他の取り組み

湖岸堤の湖側に確保された前浜は、公園として整備され、人々に自然とのふれあいの場を提供するとともに、自然景観の保全を図っています。彦根城のお堀は、琵琶湖の水位が低下した時にも影響を受けないよう、水位維持堰や取水井戸の設置などの工夫がなされ、景観が守られています。日本の名橋のひとつ瀬田唐橋は、瀬田川浚渫にともなう橋梁補強対策として従来の美しい姿を保全しつつ新しく架け替えられました。

前項へ

次項へ